

# 新春特集号



発行所  
神奈川県建設労働組合連合会  
〒221-0045  
横浜市神奈川区神奈川2-19-3  
建設プラザかながわ  
TEL 045 (453) 9701  
FAX 045 (453) 9705  
mailto:kyosenbu@kenseturoren.or.jp  
発行人 小松 實  
定価30円 (本紙の購読料は組合費に含まれています)

# ものづくりは夢と希望語れる仕事 次世代にバトンつなげたい



お寺の屋根に取り付ける鴟尾(しび)の仕上がりを確認する松枝さん。鴟尾とは棟の両端につける装飾瓦。この鴟尾はオーダーメイドで三州(愛知県)の職人の手によって作られた

## 伝統建築工匠の技 ユネスコ無形文化遺産に

日本の「伝統建築工匠の技」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことが決まりました。歌舞伎や和食などに続き国内22件目で、宮大工や左官職人が古くから継承してきた17分野の技術の価値が世界的に認められました。となります。厚木建築職組合の組合員で、今回登録された技術の「本瓦葺(ほんがわらぶき)」を手がける松枝康雄さんに話を聞きました。

厚木市で3代にわたって瓦工事業を営む松枝さん(有松枝瓦店)。寺社仏閣や国の有形文化財など、多くの伝統的建築の工事を手がけています。瓦の良さについて「葺(いらか)の波」と形容されるように、瓦屋根は見た目の美しさが大きな魅力。焼き物ならではの重厚感やナチュラル感を兼ね備えていて、なおかつ日本の風土に合った

「最近の工事では90年前の瓦を使い書き替えをおこないました。令和の時代になって、90年前の瓦を再使用して仕事しているんだよ。えらそうない方すると昔の職人の歴史と対話しているようなものだよね。一枚一枚の瓦を吟味して使えるかどうか判断しながら、この人はどう思うか考え方で仕事したのかなと想定している」と語ります。



瓦は組み合わせを考えひとつひとつ勾配を決めながら積んでいく。くさびは自作し間隔によって寸法を変えている

て仕事するわけだから面白いと思つ」と仕事の魅力を語りました。

棟にすえられる「罫斗(のし)瓦」は一見すべて同じ形に見えますが、

### 感性磨き

### おもしろさ見つけて

「一個一個にはねじれがあるアンバランスをきれいに納めるのがおもしろさ」だといいます。積みむきに瓦ごとの勾配が違つてしまつと、見た時の光加減が違つてしまつたため、現場ごとに勾配を合わせる道具を自作します。「日本建築は陰の文化。パッと見た時の影が統一されるように積んでいく。積み方がバラバラだと見る人が見ればわかつてしまふ。表現したいことに対してだけひとつひとつチェックしてアプローチしていくかの積み重ねで、地道な作業」と繊細さを語ります。

NPO法人を運営し、研修会を開催するなど瓦葺き技術の継承にも取り組んでいます。「身銭を切つても全国に飛び勉強をしたいという子がいる。そういう子にチャンスをやるのが僕らの仕事。いつも駅伝と同じだよと言っている。自分たちがしてもらったことを次の人につなげたいだけ。そうやってバトンを繋いでいくことが大事」と言います。一方、伝統的な技法をいくら勉強しても現場がないと仕事は身に付かず、そのような現場が減つてきていることも危惧しています。技術の習得については「今はサンダーという切断機があるけど、最初

使わせないです。タガネを使わせる。瓦のどこを押したら割れるとか、瓦によって固さも違う。手の感覚、五感を鍛えることが大切」とし、「僕ら屋根の仕事は昔の名人の仕事を見られるんだよね。こういう風に線を出してみたいとか。若い子にはそういう面白みを見つけて欲しいな。いろんな建物を見て感性を磨くことも大事だと思う」と次世代に期待します。

「ものづくりにたずさわる者は『こういう仕事をしてみたい』という、大げさに言う夢や希望が大事。でもそういうことを同じ仲間と語り合うことのできる仕事だと思ふ」と熱をこめました。

## 世界に認められた 自然を取り入れる技術

今回ユネスコの無形文化遺産に登録された技術の一つが「本瓦葺(ほんがわらぶき)」で、古来



松枝さんが一体型本瓦葺きを手がけた清源院(厚木市三田635)

中国からわたってきまし  
た。丸瓦と平瓦を組み合  
わせて葺いていく技法  
で、寺社仏閣などに多く  
見られます。  
松枝さんは、瓦葺きは  
「線を出す」ことが仕事  
だと言います。屋根を表  
現される曲線は、「縄た  
るみ」といって濡らした  
糸を垂らすことによつて  
できる線を使うそう  
です。それは決して放物線  
や計算式で出す科学的な  
ものではなく、自然界の中  
にある線だと言います。  
日本建築の基本は目に優  
しく、違和感がないのは  
そのためです。  
わかりやすい例が熊本  
城などの城郭の石垣で、  
重りを入れた鎖による線  
を取り付けたようです。日  
本の石垣が心になじむの  
は、自然の線をしっ  
かりと作っているか  
らだと言います。  
濡らした縄を使う  
場合は、水が乾いて  
きて縄が引っ張られ  
てしまつたため、午前  
と午後で線が違つて  
きてしまつこともあ  
るそうです。



▲棟に熨斗(のし)瓦を積む  
ときに定規として使用される  
もので、通称「鳥居」と呼ば  
れている。棟に反りがある場  
合に、棟に沿つて各場所に設  
置して熨斗瓦の割付けの基  
準として用いられる。

## 春 あいさつ 魅力ある建設産業にむけ 仲間増やし運動の前進を

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大といふ  
かつてない厳しい環境の中での組合活動でした。  
秋の拡大月間では、1  
661人を拡大し、11  
人員では実増とな  
りました。コロナ  
禍で会議やイベン  
ド、組合員訪問が  
制限されるもって  
の仲間のみなさん  
の大奮闘に、心か  
らお礼申し上げます。

コロナ感染症対策の3  
月までの国保料減免制度  
は、7000件の申請を  
受け付け、組合員の苦し  
い生活を支援していま  
す。持続化給付金、雇調  
金、家賃支援等の相談件  
数は1万6000件を受  
け付け、申請支援をす  
めています。  
アスベスト裁判では、神  
奈川第2陣東京高裁勝利



神建連会長  
塚本三千雄

判決を力に、最高裁判決  
を勝利で迎え基金創設に  
向けたたたかいに全力を  
あげます。  
魅力ある建設産業に向  
け、建設労働者の処遇改  
善、担い手確保・育成な  
どの取り組みなど、組合  
運動の前進に数の力は欠  
かせません。秋の拡大月  
間では目標到達となりま  
せんでしたが、間もなく  
はじまる春の拡大月間に  
は、県連役員、書記局一  
丸となって奮闘させてい  
ただく、その決意を申し  
上げ年頭のごあいさつと  
させていただきます。

無形文化遺産に登録された選定保存技術

建築物修理	建造物彩色(さいしき)
建築物木工	建造物漆塗(うるしめり)
檜皮葺(ひわだぶき)	屋根瓦葺【本瓦葺】
柿葺き(こけらぶき)	左官【日本壁】
茅葺(かやぶき)	畳製作
檜皮(ひわだ)採取	装演(そうこう)修理技術
屋根板製作	日本産漆生産・精製
茅採取	縁付金箔(えんつききんぱく)製造
建造物装飾	

## 仲間とのつながりづくり 一歩ずつ前進しよう

新年あけましておめで  
とございませう。  
昨年は新型コロナウイルス  
感染拡大により、沖  
縄で開催予定だった日本  
母親大会が延期になり、  
会議も時間短縮などを余  
儀なくされました。  
秋の拡大月間では、コ  
ロナ禍をどう行動すべき  
か迷いながらも、各主婦  
の会が工夫をこらし、国  
保減免制度や持続化給付  
金などの相談で組合が頼  
りになる事を伝えるた  
めに奮闘しました。訪問  
先では「ご苦労さま」あ

りがどう」と笑顔で迎え  
られ、励まされました。  
11月には働く女性の神  
奈川県集会をリモート開  
催しました。アメリカ在  
住の薄井さん、韓国、ネ  
パール等各国からの報告  
でコロナによって世界中  
でコロナによる困難に直  
面していることを実感し  
ていることを実感しまし  
た。「小児医療費助成の  
拡充を求める署名」の取  
り組みでは、子育て世代  
のご家族との対話を広げ  
てきました。  
今年もコロナが収まり  
ませんが、多くの仲間と  
のつながり作りを「どう  
したらできるか」をみん  
なで考え、一歩ずつ前進  
しましょう。本年もよろ  
しくお願いたします。

## 青年部が盛り上がり 組合に活力あたえよう

新年あけましておめで  
とございませう。  
去年の県青協は、コロ  
ナに振りまわされた1年  
でした。今年迎える県青  
協結成60周年のための大  
規模なイベント開催に向  
け、実行委員会が動き出  
していったところでした。  
その矢先にコロナが蔓延  
していき毎月の幹事会す  
らも開催できない事態に  
なりました。  
春・秋の拡大月間では、  
イベントができないな  
か、コロナ対策をして、  
持続化給付金や保険料の  
減免などの声かけをし  
て、青年部員と組合員の  
拡大目標をダブル達成す  
る事ができました。資格  
取得報奨金の「ダブルア  
ップキャンペーン」も多  
くの仲間が活用していま  
す。毎月の幹事会もイン  
ターネットを利用して開  
催するなど、コロナ対策  
をしてなんとか、活動を  
続けています。  
今年も60周年イベント  
の代替案としてウェブや  
SNSを活用した青年部  
紹介や職業紹介、オンラ  
イン工作教室などを計画  
しています。コロナ禍の  
なかでもできる限りの工  
夫をして青年部を活性化  
させ、神奈川全体の組合  
活動に青年部が活力を与  
えられるようがんばっ  
ていきたいと思います。



県青協議長  
荒川直樹

## アベ政治終わらせ 憲法いかした 政治の実現を



神奈川労連議長  
住谷和典

新たな一年は、組合員  
の生活改善「モリカケ、  
桜、学術など」の徹底解  
明と通常国会での改憲阻  
止、仲間増やしに奮闘す  
る決意です。  
今年も総選挙・横浜市長  
選などの年。「アベ政  
治」を終わらせ、「カジ  
ノNO」の市長、なによ  
りも憲法をいかした政治  
の実現にむけてともに奮闘  
しましょう。



県主婦協会会長  
伊藤淑子

先では「ご苦労さま」あ  
らお礼申し上げます。

新年あけましておめで  
とございませう。  
昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大といふ  
かつてない厳しい環境の中での組合活動でした。  
秋の拡大月間では、1  
661人を拡大し、11  
人員では実増とな  
りました。コロナ  
禍で会議やイベン  
ド、組合員訪問が  
制限されるもって  
の仲間のみなさん  
の大奮闘に、心か  
らお礼申し上げます。

今年も60周年イベント  
の代替案としてウェブや  
SNSを活用した青年部  
紹介や職業紹介、オンラ  
イン工作教室などを計画  
しています。コロナ禍の  
なかでもできる限りの工  
夫をして青年部を活性化  
させ、神奈川全体の組合  
活動に青年部が活力を与  
えられるようがんばっ  
ていきたいと思います。